

[学位申請者用]

学 位 論 文 提 出 要 領
(課程博士)

提出期限:平成31年1月7日(月)17時(厳守)

国際文化学研究科

1. 提出書類

	提出物	部数	留意事項
1	博士論文	審査委員人数分 + 公開用 1 通	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語または英語で論述すること。(本文が英語の場合は、表紙の氏名は英文及び和文を併記すること。ただし、留学生の場合は、カタカナによる和文の併記は不要) ・日本語の場合、書式は、A4 判、縦位置、横書き、左綴じ、40 字×30 行、10.5 ポイント、または、A4 判、横位置、縦書き、右綴じ、40 字×30 行、10.5 ポイントを基本とする。 ・英語の場合、書式は、A4 判、縦位置、横書き、左綴じ、60 字×30 行、10.5 ポイントを基本とする。 ・別紙【参考例】のとおりクロス表紙等で仮綴じし、表紙、目次、本文の順に綴ること。(英語の題目はその和訳を併記)
2	公表用学位論文 (PDF ファイル)	CD-R 1 枚	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙【参考例】のとおり、CD-R の表面に研究科・学籍番号・氏名・論文題目(和訳)を記入すること。 ・データ形式は PDF/A (ISO_19005) で作成し、ファイル名は例に倣って作成すること。(例) : 甲_123C456C_神戸太郎_学術 ・学位論文は、全文(表紙・目次・本文)を 1 つの PDF ファイルで保存すること。 ・論文の全文公表を延期する場合は、<u>学位論文の要約</u> (論文要旨ではありません。) も別途 1 つの PDF ファイルで保存すること。保存の際、「学位論文の要約」として博士論文と同様に表紙をつけること。ファイル名は例に倣って作成すること。(例) : 甲_123C456C_神戸太郎_学術_要約 ・論文中に個人が特定できるような顔写真や個人情報のためインターネット公表に適さない部分にマスキング処理等を行っている場合は、国立国会図書館送付用のファイル(マスキング処理していないもの)とマスキング処理後のファイルの両方を保存すること。 <p>※そのほか、公表用学位論文に関する詳細は、本学附属図書館の HP を参照してください。</p> <p>http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/regist_thesis.html</p>
3	学位論文審査願 (所定の様式)	原本 1 通 + 写し 1 通	<ul style="list-style-type: none"> ・各書類の数は原本のみの部数(写しの部数を除いた部数)を記載すること。
4	論文目録 (所定の様式) (電子媒体及び紙媒体)	原本 1 通 + 写し 1 通 + 電子ファイル 1 通	<ul style="list-style-type: none"> ・電子媒体(Word 形式のファイル、ファイル名は学籍番号)は、以下のメールアドレスに添付し、送信すること。(件名は、「論文目録」、印は不要) 【提出先 : gicls-drgakusei@office.kobe-u.ac.jp】 ・紙媒体は、メールに添付したものをそのまま出し、押印のうえ提出すること。 ・題目(副題を含む)は、提出した学位論文のとおり 1 字 1 句間違いないように記載すること。(大文字、小文字も注意) ・英語の場合は、必ず題目の下にその和訳を()を付して併記すること。

			<ul style="list-style-type: none"> ・印刷公表の方法及び時期について <ol style="list-style-type: none"> 1)公表は単行の書籍又は学術雑誌等の公刊物（以下「公刊物」という。）に掲載して行うこと。 2)公表は原則として学位論文そのものを全文公表すること。 3)自費出版等によるもので、購読できるものが限定されている出版物であっても、大学、その他の学術機関等に配布されたものについては、公刊物として扱うことができる。 4)未公表のものについては、その公表の方法及び時期の予定を記載し、予定が定まっていない場合は、「未定」とすること。既に投稿し、学会等において、掲載期日が決定しているが、学位論文提出時において、印刷公表していないものは「〇〇〇〇〇〇学会誌〇巻〇号 平成 年 月 日 掲載予定」のように記載する。 ・参考論文がある場合は、<u>書誌事項を明記</u>すること。
5	論文要旨 (所定の様式)	原本（審査委員 人数分） + 写し1通	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の場合は2,000字程度、英語の場合は1,000語程度とする。 ・論文題目が英語の場合は、必ず題目の下にその和訳を（ ）を付して併記すること。
6	履歴書 (所定の様式)	原本1通 + 写し1通	<p>(1) 氏名（英語表記含む）について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学位記に記載するため、<u>戸籍のとおり</u>記入し、通称等は一切用いないこと。ただし、旧姓で学籍登録を行った者は、旧姓を用いること。 2) <u>留学生の場合は原則、学籍登録(=パスポート)どおりに記載すること。順番も学籍登録どおりにすること。</u> 3) 日本人の場合は、英語表記は、姓・名の順で記載し、姓は大文字にすること。（例：KOBE Taro） <p>(2) 生年月日について</p> <p>西暦で記載すること。</p> <p>(3) 現住所について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 住民票に記載されている住所を記入すること。 2) 各種の連絡、通知に支障のないよう、団地名、番号等も記入すること。 <p>(4) 学歴について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校卒業後の学歴について、年次を追って記入すること。 2) 入学・休学・復学・退学・卒業・修了その他の在籍中における異動について、もれなく記入すること。 3) 本研究科における学歴については、次の要領で記入すること。 平成〇〇年4月1日 神戸大学大学院国際文化学研究科 〇〇〇〇専攻（博士課程後期課程） 入学（又は進学） <p>平成〇〇年4月1日 同 休学</p> <p>平成〇〇年4月1日 同 復学</p>

			<p>平成 30 年 9 月 25 日 神戸大学大学院国際文化学研究科 ○○○○専攻(博士課程後期課程) 修了見込み</p> <p>※本学の場合、<u>正規生の修了日は 25 日、研究生は月末であるので注意</u>すること。</p> <p>(5) 学会等について 加入している学会の名称及び学位審査の参考になると思われる社会における活動等について、年次を追って記入すること。</p> <p>(6) 賞罰について 特記すべきと思われるものを記入すること。 記載事項がない場合は、「なし」と記入すること。</p> <p>(7) 職歴(研究歴含む。)について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 年次を追って記入すること。 2) 常勤の職については、その勤務先、職種等を年次を追って記入すること。ただし、非常勤の職であっても、特に教育・研究に関するものについては記入すること。 3) 現職については、当該職について記入した箇所に、「現在に至る」と明示すること。 4) 研究歴として記入する事項の例 <ul style="list-style-type: none"> イ 研究課題に関するもの ロ 研修に関するもの ハ 学術調査に関するもの ニ 学術奨励金に関するもの ホ その他学位審査の参考となるもの • 記載事項がない場合は、「なし」と記入すること。
7	業績一覧	原本(審査委員 人数分) + 写し 1 通	<ul style="list-style-type: none"> • <u>既発表論文(掲載予定証明書を得られる未公刊論文を含む)</u>を漏れなく記載し、必要な書誌事項を明記すること。
8	参考論文 (ある場合のみ)	審査委員人数分	<ul style="list-style-type: none"> • <u>業績一覧に掲載した論文を、2点を上限</u>として参考論文として提出することができる。 • 参考論文を提出する場合は、論文目録に書誌事項を明記すること。

注1：博士論文、審査願、論文目録、履歴書の日付は全て同日(提出日)に統一します。

注2：所定の様式は、国際文化学研究科 HP (<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/students-g>) からダウンロードし、Microsoft Word 又は互換ソフトで作成してください。(署名を除き、手書き不可)

注3：審査委員の人数は、指導教員に確認してください。

2. 学位論文の公表について

博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から原則として1年以内にインターネット上に全文を公表しなければなりません。（神戸大学では、神戸大学学術成果リポジトリにより学位授与日から1年後に公表されます。）

ただし、やむを得ない理由により1年以内に全文を公表できない場合は、学位論文提出時に、「[博士論文全文の公表延期申請書（新規）](#)」（様式は、国際文化学研究科HPからダウンロード）を併せて提出してください。

（やむを得ない理由とは）

著作権保護、個人情報保護等の理由による場合や出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の出願等との関係で、リポジトリの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって、明らかな不利益が博士の学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

※2年経過後も、延期の事由が生じる場合は、「[博士論文全文の公表延期申請書（継続）](#)」を提出してください。

※全文を無期限に公表できない理由がある場合は、「[博士論文全文非公表申請書](#)」を提出してください。

3. 最終試験等について

- (1) 博士論文及び関連科目に関する最終試験を公開で行う。
- (2) 試験科目については、主たる指導教員から通知する。
- (3) 試験日等については、1月21

日頃、掲示にて通知する。

※平成31年3月修了者の修了判定は、平成31年3月上旬に行われる予定。

※学位記授与式は、平成31年3月25日（月）の予定。